

とよのか（莓）の多収技術

◆反収・・・安心・安全栽培はコスト削減と収益拡大？！

長崎県／莓生産者 Hさんの成果【品種：とよのか：10アール：露地（トンネル栽培）】

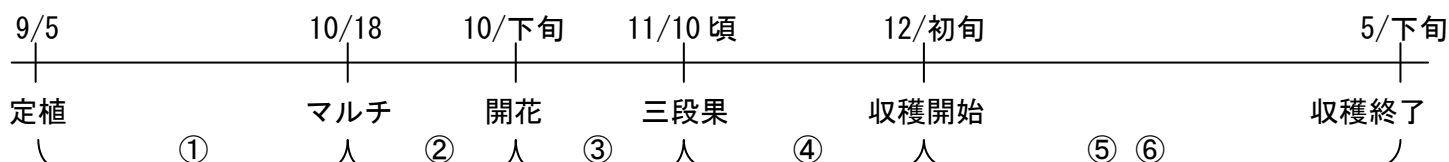
1. 栽培状況

栽培面積	18a	苗数	10,000本
栽培員数	2人（本人と奥様）	使用肥料	堆肥中心

2. 栽培経過

- ①育苗ポット 18a 10,000本の苗にマリネックス原液2ℓを2,000倍に希釈して灌水
- ②定植 9月5日開始、9月7日完了（JA指導は9月7日）
- ③ビニール被覆 10月18日までは仮掛け（密封せず）し、10月18日完了

栽培ステージとマリネックスを使用された方法



- ①根作りの促進・・・定植後、第一段果の花芽分化してから、マルチ完了までの期間
マリネックス3,000倍希釈水を4日に1回かん水した
- ②樹作りの促進・・・樹作りの期間
マリネックス3,000倍希釈水を10日に1回かん水した
- ③乱形・奇形果防止・・・開花期
マリネックス3,000倍希釈水を3日に1回かん水した
- ④分化の押し上げ促進・・・第三段果の分化
マリネックス3,000倍希釈水を7日に1回かん水した
- ⑤収穫期・・・肥料吸収の調整と収量の持続
マリネックス3,000倍希釈水を7日に1回かん水した
マリネックス1,000倍希釈水を7日に1回葉面散布した
- ⑥出荷時・・・品質・鮮度の保持
マリネックス100倍希釈水をパック上段・下段の莓の上からスプレーで吹き付けた



3. マリネックスの使用結果

①奇形果・乱形果が激減

地温管理の徹底と頂果房時に葉内が窒素過多になると乱形果や奇形果が出るので、マリネックス3,000倍希釈水のかん水をし、乱形果・奇形果防止をした。

②玉の肥大化に促進効果

特に日照時間が短くなってからの光合成不足対策として、マリネックスやアミノ酸混合の1,000倍液の葉面散布をしたことで葉が立ち、玉に光が届き着色・肥大の効果があった。

③ 樹勢の維持が促進

樹作り期からのマリネックスをかん水した事による効果の持続もあるが、第三段果の押し上げ期に実施するマリネックスのかん水は樹勢をも強くし、3~4月になってもバテがこなかった。収穫期には収穫に追われてこちらがバテそうであった。

④ 収量が40%以上の増収

地元のJA苺部会の平均を40%上回る収量があった。(下表参照)

JA出荷分以外に地元の温泉地の朝市にも出荷し150万円位の収入があった。

⑤ ウドンコ予防対策

マリネックス1,000倍希釈水を葉面散布した事でウドンコ病が出なかった。

⑥ 鮮度保持・色保持対策

出荷のパック詰めの時、マリネックスの100倍希釈水をスプレーで下段を並べた上からと、上段を並べた上から吹き付けて出荷した結果、頂部も軟化せず、色も変化なく、鮮度保持ができた。又、出荷調整ができた。

4. 生産状況と売上状況

《表-1》等級とサイズ (単位/kg)

	秀	優	良	可	小計
3L	137	1,259	922	501	2,819
2L	1,063	296	310	0	1,669
L	1,453	0	0	0	1,453
M	1,384	0	0	0	1,384
S	1,501	0	0	0	1,501
2S	681	0	0	0	681
合計	6,219	1,555	1,232	501	9,507



《表-3》重量と売上(単位/kg・千円)

面積 18a	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計	10a 当たり
重量/kg	59	2,105	1,917	1,248	1,208	2,550	420	9,507	5,282
売上/千円	117	4,181	2,141	1,212	1,636	2,246	350	11,883	6,602
kg単価/円	1,983	1,986	1,117	971	1,354	881	833	1,250	1,250

◆ 収量 **40%**アップ+秀品率向上

JA苺部会会員平均・・・坪当たり/売上/13,270円

マリネックス使用・・・坪当たり/売上/18,685円

◆ マリネックス使用料・・・5ℓ缶 2個 33,000円

少ない投資で最大効果!! **僅か 33,000円の出費で40%の増収!!**

